

平成30年6月22日

君津市議会議長 鈴木 良次 様

かがやき君津 代表 奈良輪 政五

会 派 視 察 報 告 書

伊豆の国市の公共交通について、視察報告書を次のとおり提出いたします。

記

- 1 期 日 平成30年4月27日（金）
- 2 視 察 先 静岡県伊豆の国市
- 3 調 査 事 項 公共交通について（伊豆の国市）
- 4 参 加 議 員 奈良輪政五、橋本礼子、船田兼司

静岡県伊豆の国市

日 時：平成30年 4月27日（金）午後1時00分から2時30分

場 所：伊豆の国市役所（静岡県伊豆の国市長岡 340-1）

出席者：増島議会事務局長、勝村市長戦略部政策推進課長、
神馬市長戦略部政策推進副主幹、久保田市長戦略部政策推進主査、
小山教育部学校管理係長、西島議会事務局庶務係長

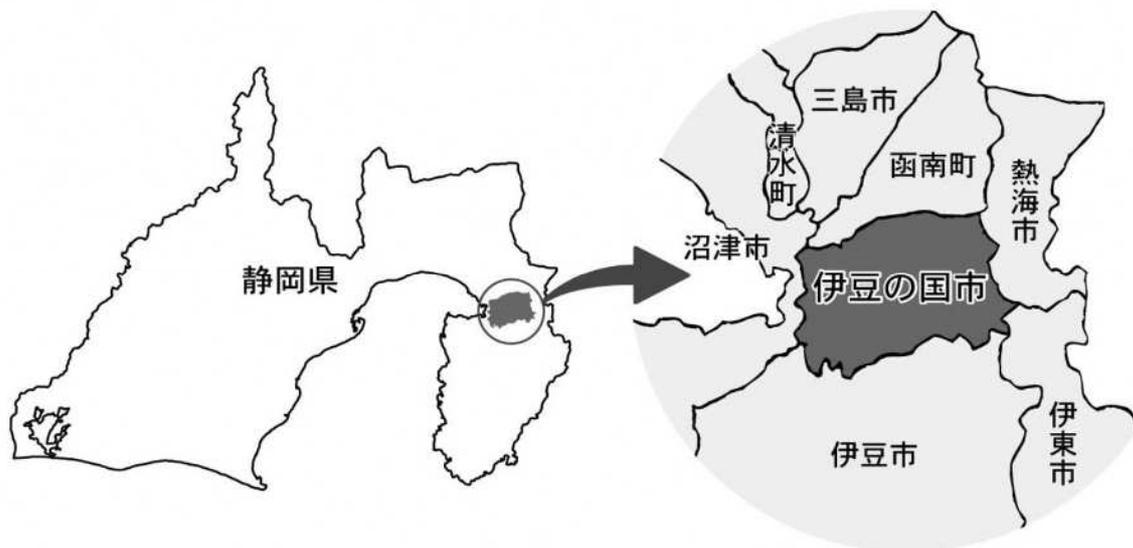
1 伊豆の国市の概要について ※（）内は君津市

人 口：49千人（89） 面 積：94.62km²（318.81）

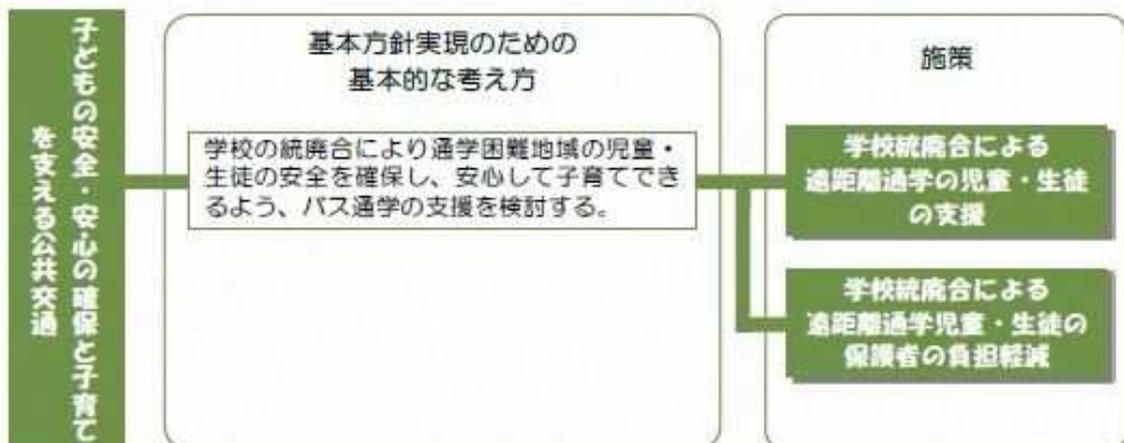
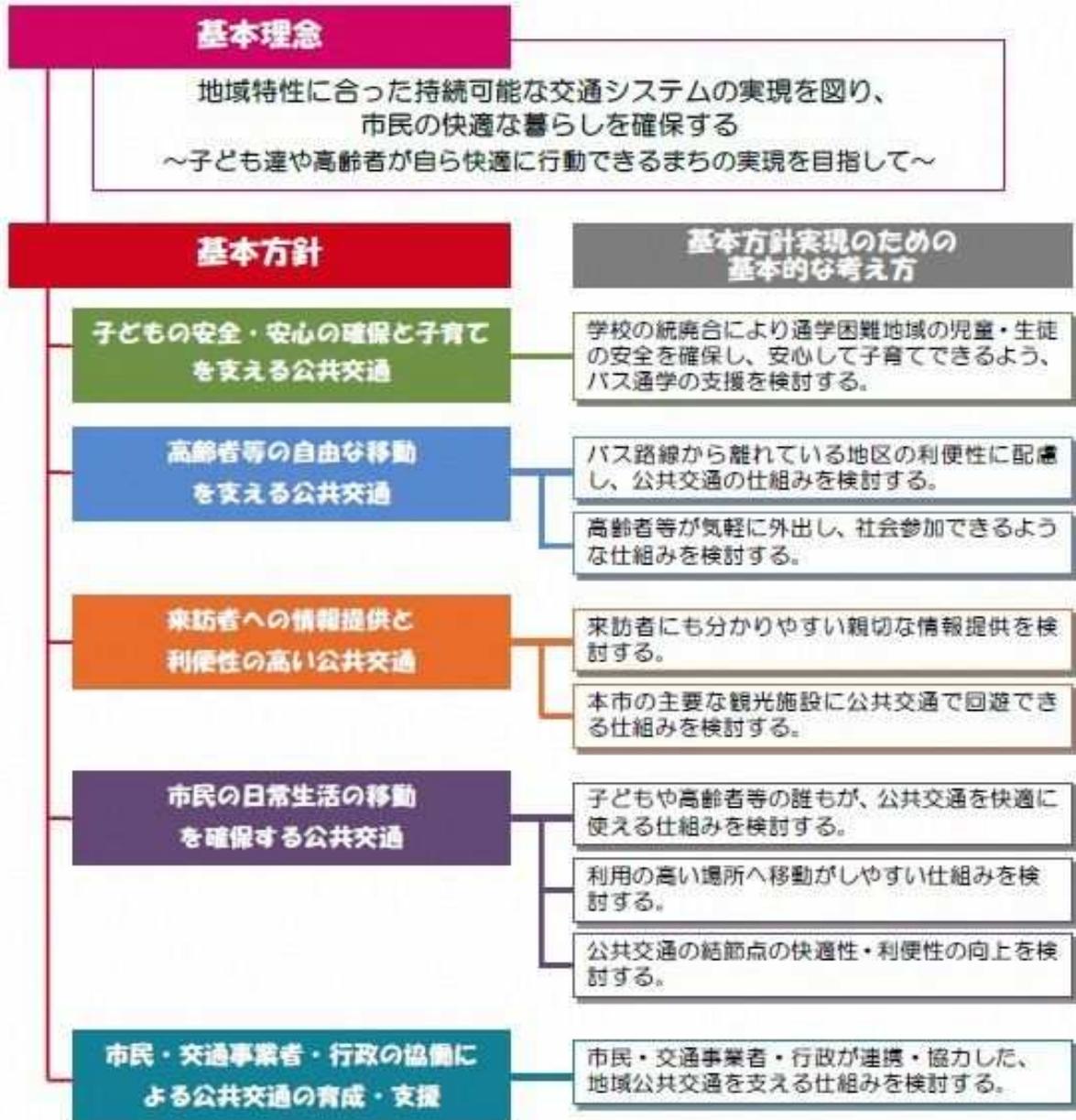
一般会計予算：179.6億円（281.5） 議 員 数：17名（24）

伊豆の国市は、伊豆半島の北部、田方平野のほぼ中央に位置します。東は箱根山系の連山に、西は城山などの山々に囲まれ豊かな自然環境を保っています。平野部は南北に狩野川が流れ、豊かな田園地帯が広がっています。また、狩野川に沿うように国道136号、伊豆箱根鉄道が走り、周辺に市街地を形成しています。

東京からは100km圏域にあり、東海道新幹線、東名高速道路を利用して2時間弱の所要時間であり、首都圏とのアクセスもよく、沼津市や三島市の静岡県東部の中心地に近く、交通の利便性に恵まれています。



2 調査事項について
 地域公共交通について



3 視察先での質問と回答

本市では学校再編に取り組んでおり、平成31年度から33年度にかけて、主に中山間地域にある8校(小4、中4)の小中学校を統合により、閉鎖することとしております。

統合により広範囲にわたる学区内において、児童生徒の通学のため、スクールバスの導入を検討しており、現時点では未確定ながら、多くの台数が必要と見込んでおり、その有効活用が課題となっております。

また市街地と中山間地を結ぶ、基幹となる公共交通路線と、そこをつなぐ公共交通網の整備が課題となっております。そこで、次の点についてお伺いします。

Q 学校統合に伴う遠距離通学児童・生徒の足の確保をどのように実施されたのか。

また、小学生、中学生では部活や教育課程の影響で登下校時間が異なると思われるが、その対応について

A 基本的には既存のバス路線(自主運行バス)の活用と市所有車両を活用した無償運送(朝・夕)で対応しており、遠距離通学の児童生徒の定期代補助(路線バス定期 全額)をしている。自家用車を利用する通学補助として基点から住居までの通学距離の2倍した距離に1km当たり37円を乗じた額を日額として支給している。

また、通学下校時の搬送支援(小学生対象)として平成28年4月よりタクシー会社と契約締結した乗合タクシーで、各学年の下校時間帯に合わせて小規模輸送をしている。低学年・高学年の授業終了毎に下校が可能。

Q スクールバスの導入と活用の研究成果について

A メリットとして、学校行事に合わせた運行が可能、乗降自由でバス停不要で通学用運行料金が適用され現状より安価である。デメリットとして特定の方のみ乗車、料金徴収は違法となる。第3者が居ない空間となり公共性のマナーを学べない。様々な検討を重ねたうえでスクールバスの導入よりも、既存の公共交通の利用を選択することとした。

Q 市自主運行バス運行事業について

A 通勤通学、買い物などの日常生活の行動に合わせた利用しやすい公共交通網の検討及び公共交通空白地域の解消に向けた取り組みとして、バス路線のアンケート調査や、行きたい目的地の調査を実施し最寄りの鉄道駅に結節した運行、児童生徒以外の利用者の拡大が見込める運行に変更した。

Q 地域の公共交通網を考える上で、地域住民の協力、理解が不可欠であるが、伊豆の国市の特徴的な取り組みについて

A 予約型乗合タクシー制度を導入した。特徴としては、実証運行開始条件の該当項目（地域住民が主体となった運営組織等の形成があること、重複路線が無いこと等）に適合し、実証運行期間中に『本格運行開始条件』を満たす見込みのある運行計画があることを示し、住民利用を促し地域で持続可能な公共交通網を形成している。

また、著しく利用の見込めない路線に関しては運行の廃止となる。

Q 路線バス等へのパーク&ライドを推進されたようだが、その概要と実施する場合の必要条件等について

A バス路線から離れている地域の交通利便性に配慮し、高齢者等が気軽に外出し、社会参加できる仕組みを構築する。具体的には、病院行のバスが通過するバス停の隣接した場所に駐車場を設置し公共交通の利用促進を図る。課題としては駐車場用地の確保、土地利用者の理解と協力、周辺住民への周知などがあげられる。今後も高齢者の生活スタイルに合わせた自主運行バス等の運航時刻・路線等の見直しや、他の地域のバス停についても可能性調査を随時実施していく。

4 所感

伊豆の国市では、民間路線バスやタクシーを使い、住民の話し合いを基本に様々な公共交通を支援していた。特に統合した小・中学校の児童・生徒のために、従来の路線バスを有効活用し、民間と協働した公共交通体系を形成していた。

本市においても、中山間地域における交通空白地の解消や学校再編に伴う通学手段の確保などは喫緊の課題である。伊豆の国市の先進的な取り組みを参考にし、住民のニーズを把握した、持続可能な公共交通網の整備につなげていきたい。